

私の履歴書

釜本 邦茂

②

かなと思いつつ「3年計画で優勝する」とぶち上げた。

監督1年目は2位、2年目は4位に終わったが、3年目の80年に優勝できた。

1年目の失敗は自分の中で監督と選手を都合よく使い分けたせいだった。社内の打ち合わせなどで練習に遅れても監督として何食わぬ顔で振舞った。若手と一緒に練習を

入ったら途中で抜けない。順位は下げたが、選手と一体感が生まれた手応えがあった。コーチの三田儼がいい参謀役になり、チームも副島博志や楚輪博、坪田和美、長谷川治久らイキのいい新人を積極的に補強してくれた。

まだ使えるFWだった。GKとしても使った。第7節の三菱戦で交代枠を使い切った後、GK坪田が負傷退場した。残りの10分、FWからゴール前に移動して私がらみを効かせたらシュートをこごとく外してくれた。第10

監督兼任 3年目で優勝

世界選抜でスターと共演

新たな挑戦

74年、75年と日本リーグ(JSL)を連覇した後、成績は4位、5位と下降した。67年から鬼武健二監督がずっと指揮を執ってきたが、鬼武さんが社業に戻るのを機に人心一新を図ろうとしたのだらう。後任の条件に私をうまく使いこなせることが挙げられ、「釜本に指図できるのは釜本だけやろ」ということになったのだと思う。

現役に未練があったから、

リーグの体裁がすっかり整ってからは前例のないこと。手探りでやることになるが、岡部長と鬼武監督も交えた席でゴーサインが出た。周りをみるとメキシコ五輪の先輩たちが既に監督になっていた。八重樫茂生さんは富士通、横山謙三さんは三菱重工、鎌田光夫さんは古河電工、小城得達さんは東洋工業、宮本輝紀さんは新日鉄。偉そう

さすがに選手からブーイングが出た。「監督兼任といっても選手なんですよ。それやったら練習もちゃんとしてくれないと困ります」

2年目からは監督としてベテラン釜本に厳しく接した。遅刻しても練習の輪に入り、



1980年、ヤンマーで優勝して胸上げされる筆者

この年の12月、ユニセフ主催の慈善試合の世界選抜の一員に選ばれ、FCバルセロナと試合をした。監督が西ドイツ留学

でお世話になったデアバルさんだったこともあり、後半から出させてもらった。オランダのクライフ、フランスのプラティニ、西ドイツのルンメニゲら名だたるスターと共演、忘れられないバルセロナの夜になった。

(日本サッカー協会顧問)